

プール跡地工事の進捗

1月16日現在のプール跡地の様子です。部室等は取り壊され、プールのあった場所にも土が入れられ



れ、更地になりました。東側と西側入り口の階段はそのまま残りますが、台形型の変則的な土地ではあるものの、いろいろな活動に利用できそうです。ボール等を使用する場合はネットが必要ですし、他の建物や駐車場に迷惑がかからないようにしなければなりません。施設検討会議でその方向性を決め、4月以降の利用に向けて詰めを急ぎたいと思います。周囲にお住まいの方々のご協力でここまで來ました。良い活用法を見いだし、有効的に使用できるよう知恵を絞っていきます。ご意見等あれば事務室までご連絡ください。よろしくお願ひします。

阪神淡路大震災1・17のつどいボランティア 東

遊園地で毎年開催される1・17つどいの準備に硬式野球部がボランティアに参加しました。この活動は震災2年後の1997年から続いているそうで、実行委員長の堀内正美さん(神戸市在住の俳優)によると「最初の年は、何をやっても良いと言っていたら周りで竹筒を運ぶ人やろうそくを運ぶ高齢の方を見て生徒自らが行動を起こし、手伝い始めた。自発的な活動が大事でここまで続けてやってもらっている」とのことでした。何事も何をすべきか考えて自主的に行行動することはとても大事です。やらされている間は、やっていることの意味も考えず気持ちもこもらないので、やる方もしんどいし、やらせる方もしんどいです。これでは全く意味がありません。私も避難所運営のお手伝いをしましたが(当初は教員としてできることができそれがそれしかなかった…),避難されている方々の日々の活動や行動を見て、学ばせていただいていることが多かったです。グラウンドにできた仮設風呂(水の入れ替えや薪で火をお起こしお湯を供給する事はすべてボランティアの方がしてくれました)に入り、避難されている方々の日常の学校への思いを聞くこともあります。また、授業再開に向けて教室を空けて部屋を移動してもらうときには、教室の壁を綺麗に拭きながら私に「先生ありがとう」と言ってくれるのです。「ご自身は家も倒壊して大変な思いをされているのに」と思うと、人と人のつながりや助け合うことの大切さ、学校が地域に果たす役割など多くのことを考えさせられ、この経験は自分の教員生活の中で生徒や周りの方々に伝えていきながら、学校作りをしていかねばならないと思わせてくれました。



生徒たちがお手伝いする姿を見ていると当時のことが思い出されました。前日の竹筒の運び入れに始まり、この日の行程は竹筒にろうそくを入れ、水で浮かせるように竹筒に水を入れる作業をし、紙灯籠への点火までの作業です。また、紙に言葉を書いている作業班もありました。生徒たちはテキパキと作業をし、担当者からの指示も聞きながら積極的に動いている姿は、自分たちがやらねばという思いが伝わってきてとても気持ちの良いものでした。点火する際には周りはまだ明るかったのですが、点火が進み、周りが暗くなってくると何とも言えず独特的の雰囲気に包まれました。その中で17時46分に黙祷…。亡くなった方々へのご冥福をお祈りすると共に何かしら「生かされている」事への感謝の気持ちが湧いてきたように思います。1月17日早朝のつどいはいつもテレビ等で映し出されていますが、いろいろな人の思いの詰まったイベントであることを改めて知ることになりました。関係者の皆様お疲れ様でした。そしてありがとうございました。(1月15日は女子柔道部も参加しました。)

柔道部卒業生顕徳海利選手の活躍に伴う祝勝会に参加

1月18日本校卒業生顕徳海利選手の祝勝会が行われ、現役部員と共に柔道部OB会の行事に参加しました。大学生のオリンピックといわれる大会で優勝、体重別全日本学生大会での優勝、さらには12月グランドスラム大会で阿部一二三選手と決勝を戦うなど急成長を遂げた裏側を感じる良い機会となりました。今後の活躍を期待すると共に卒業生の頑張りは現役にも良い刺激となります。先輩方の頑張りを励みに現役部員も頑張ってほしいです。

